

大阪インターナショナルチャーチ ゲストスピーカー：眞鍋孝

聖書箇所： 詩篇 19 篇

2023/05/28

メッセージタイトル： 「ダビデとみことばの力」

皆さんおはようございます。世界は混沌とした状況にあります。寒かった冬も終わり、いつの間にか、春爛漫の時を迎え、今年も夏がやって来ようとしております。目を外に向けると、ロシアとウクライナの戦争がなおも続いており、終息がいまだに見えません。また、新たに南スーダンでは政権争いが、自国内紛争になり、多くの人々が死傷しております。更に、新型コロナの疫病が、世界中の国々に流行して、ワクチンの効果も確かに出ている中であっても、この4年間、数えることが出来ないほど多くの世界中の尊い人命が失われ続けて来ています。

このように将来に不安材料が一杯あるような世界状況の中で、私たち、今、生かされている者達は、自らの人生に関して、何が起こっても大丈夫と思えるような歩みをしてくれているのだろうか、と自問することが多いのではないでしょうか。

今日の聖書の箇所は、今から3千年以上前にイスラエルの王であり、当時の聖書（旧約聖書）が神からの啓示であると信じ切っていた信仰者ダビデの賛歌です。ダビデ王は、旧約聖書の詩篇の中に、数多くの信仰の歌を残しています。今日の聖書箇所、詩篇19篇には、ダビデが何を信じて信仰生活を送っていたのかが明らかにされています。

前回の私のOICでのメッセージ箇所は、詩篇1, 2篇でした。そこでは、幸いな人とは、「悪しき者のはかりごとによらず、罪人の道に立たず、嘲る者の座に着かない人、主のおしえを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむ人」、「恐れつつ主に仕えよ、おののきつつ震え、子に口づけせよ。」（詩篇1篇1, 2節； 詩篇2篇1 1節より抜粋）の様な人とされていました。

ここ詩篇19篇でも、同じような歩みにあった信仰者ダビデの日々のすがたが明らかにされています。ダビデは、神の啓示には2つの方法、即ち、自然啓示と特別啓示があることを確信していたようです。

I 偉大なる創造者は被創造物を通して人に豊かに臨み、ご自身の存在を示しておられる（自然啓示） 詩篇19篇1節～6節

神の創造されたものは、天と地に満ち、神の置かれた秩序に基づき驚くばかりの正確さで運行されている。古今東西そのような自然現象は、世界中の人々に示され、人々はそれを生活の中に取り込んでいる（1～4節）。そのような

中でも太陽の存在とその動きは、この地に無くてはならないものを提供し、人々の生活を助けている（5，6節）

ダビデは、まぎれもなく、自然現象から創造主の偉大さ、緻密な秩序の元に一切を支配し、統御している様を、感じ取ったことと思われる。

特に、5節、6節で記述されている太陽の動きと機能は、驚くばかりの感動をダビデに与えていることは明らかである。

Ⅱ 人の創造者なる主なる神は人の魂を整え、完全な者とするために特別に語りかけられた（特別啓示） 詩篇19篇7節～13節

人は自然現象の観察と理解をいくら深め究めても、それによって自らの心、魂を清め整えることが出来ない、ということをダビデは良く理解していた。

人には、神の語りかけによる救い主との出会いが、心の刷新と清めのために必要であるところをダビデは知り、体験していた。

主（ヘブル語でヤーウェという語が用いられている）は、契約（約束）に基づいて、私たちが死んでいる者から生ける者に変えてくださり（7節前半）、愚かさではなく知恵深さと賢さを備えてくださる（7節後半）。主は、私たちに真の喜びを、また、清めを与えてくださる（8節）、また、私たちに主のみを畏れ、主の裁きに委ねることを教え（9，10節）、この御方が私たちがあらゆる罪から解放し、赦し、私たちが神の子供にふさわしい者になるために、救い主として助けてくださる（11節～13節）。

結語

このような主のみことばに従って、この御方の教えをいただき続ける歩みこそ、人間の本分であることをダビデは深く体験し、知っていた。

であるから、信仰者ダビデは、この御方の前に立ち、

「私の口のことばと、私の心の思いとが御前に受け入れられますように。

主よ わが岩 わが贖い主よ。」（14節）と告白し、祈っている。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」（ヨハネの福音書3章16節）のみことばを、ダビデも同じように体現していたのではないだろうか。